

本校の活動状況報告及び 自己点検・評価結果報告書(令和5年度)

○ 総 括

本校では、国立高等専門学校機構の第4期中期計画をベースに、年度計画及び具体的な PLAN を策定し、それを実現すべく DO、CHECK、ACTION を行い、各年度終了後にその活動状況及び教育点検システムの点検・評価を実施している。

自己点検・評価結果報告および活動状況報告を示す。まず、「自己点検・評価結果報告書」は、令和2年度新たに作成された様式で、自己点検システムをより強化する目的で策定された「徳山工業高等専門学校自己点検・評価実施要項」に基づいたものである。この様式では、全11項目からなる評価基準ごとの担当者(担当者が複数の場合は総括担当者)が、任意に定めた評価の視点により、自己点検評価結果およびその根拠理由を総括的に示している。なお、自己点検評価結果は、S(特筆すべき進捗状況)、A(順調に進捗)、B(やや遅れている)、C(大幅に遅れている)のいずれかを付与している。

一方、「活動状況報告書」では、運営会議を構成する各部署等から提出された令和5年度における活動状況が報告されている。ここには、各部署の責任者が、自身が関与する項目に対して、PLAN(令和5年度当初の活動方針・活動計画)、DO(実施状況)、CHECK(成果及び課題)、ACTION(次年度への取組)、ならびに PDCA の点検結果(PDCA サイクルが機能しているかどうか)について自己評価した結果が、その理由とともに示されている。

「自己点検・評価結果報告書」によれば、令和5年度における評価基準別の年度目標達成度のうち、S評価(特筆すべき進捗状況)が11項目中0項目、A評価(達成できた)11項目、B評価(概ね達成できた)が0項目で、全体として年度目標の達成度は高かったと言える。模索してきた新たな取り組みによる成果が見えた一年ではあったものの、課題が散見された令和4年度と比べ、全ての項目が達成され、第4期中期計画をしめくくるのにふさわしい一年となったと言える。このような評価基準別の点検評価結果から、各部署および本校全体の PDCA サイクルは、令和5年度も安定して機能していると判断される。

「活動状況報告書」において、本校全体の活動状況は69の評価項目中、S(年度計画の達成に向け特筆すべき進捗状況である)が0項目(0.0%)、A(順調に進捗している)が59項目(85.5%)、B(やや遅れている)が10項目(14.5%)、C(大幅に遅れている)が0項目(0.0%)となっている。令和5年度では感染症による制限が大幅に緩和され、多くのイベントやコンテストが対面で再開されるようになり、開催状況としてはコロナ禍前と遜色ない状況となってきている。国際交流では、トビタテ！留学 JAPAN プログラムで7名が採択され海外留学した他、インドネシアのガジャマダ大学および、マレーシアの日系企業へのインターンシップ、香港 IVE から教員1名を含む15名の留学生受け入れ、シンガポールポリテクニクへの短期派遣など、多くの学生を海外に送り出し、また受け入れることができた。教育の質向上に関しては、「徳山工業高等専門学校教育力向上 FD プログラム」に則り、計画的に研修会等を実施することで、教員が相互に学び合える環境が整った。在校生へは国立高専機構本部の学習管理システム(LMS)である WebClass を利用した授業アンケートを行うとともに、卒業生・修了生・企業を対象とした大規模なアンケートを実施し、ディプロマポリシー確認のための準備ができた。令和5年

度専門学科採用予定教員の公募においても博士の学位を有することを要件とし、高度な専門資格を有し、民間企業経験者や高い教育力を持つ者を積極的に公募することで多様かつ優れた教員の確保を目指した。

次期機関別認証評価にむけて自己点検・評価のシステムの機能不全が指摘されており、PCDA サイクルの刷新が必要である。刷新された PDCA サイクルに関する学内での理解はまだまだ十分であるとは言えないが、上述したような教員の FD 活動や新しい授業アンケートシステムの導入などの取り組みにより、今後業務の質向上が期待される。

令和元年度から続いたコロナ禍から大きく行動制限緩和が行われたが、不安定な世界情勢も相俟って、依然として予断を許さない状況には変わりはない。学校現場でも、感染症対策に配慮しながら、学生たちの学びを継続させ、教職員の働き方についてより良い体制づくりを進めている。今後、これまで培ってきた古き良きものと、コロナ禍において蓄積した知見を如何に融合しながら、持続可能な教育活動・運営体制の構築が問われている。

○ 点検手順と日程

点 検 内 容	日 程
1. 令和5年度運営会議の構成メンバー等に、各担当部署の活動状況について報告書の提出を依頼	令和6年3月14日(木) 運営会議で予告 3月15日(金)依頼 3月29日(金)〆切
2. 提出された報告書に対し、本校全体の活動状況を主体に、自己評価WGメンバーが検証(コメントを記入)	4月10日(水)依頼 4月17日(水)〆切
3. 提出された全部署の活動状況報告書とそれに対する検証結果を、当該メンバーに返却。検証結果に基づく改善策について対応を依頼。その際、他の部署の記載内容も参考に、実施状況の追記や評価の再確認、未記入欄や誤字脱字等については注意を促すなど、必要な修正を依頼	4月19日(金)依頼 4月26日(金)〆切
4. 提出された全部署の活動状況報告書とそれに対する検証結果を踏まえ、徳山高専評価の基準について、自己評価を依頼	6月上旬
5. 自己評価WG長が総括の原案を作成し、自己評価WGメンバーに送付	6月中旬
6. 自己評価WGにおいて、本校の活動状況ならびに自己点検・評価システムが機能しているかどうかについて総括の検討	6月下旬自己評価WG
7. 活動状況報告及び自己点検・評価結果報告書をまとめ、公表	7月運営会議にて公表
8. 令和6年度顧問会議で検証	9月10日(火)開催

令和6年8月19日

自己評価ワーキング